

2023年度 マリヤこども園 事業報告

1. 園の概要

(1) 基本情報

- ①名称 幼保連携型認定こども園 マリヤこども園
- ②所在地 八千代市米本1359米本団地4街区39棟
- ③電話 047-488-2471 FAX 047-488-8615
- ④ホームページ <https://www.ainosono.or.jp/mariya/>

(2) 在籍園児の状況（月別・クラス別）2023年度 在籍園児数年間人数集計表

	5歳		4歳		3歳		幼児合計	2歳	1歳	0歳	乳児合計	合計		定員割合	
	2号	1号	2号	1号	2号	1号						2・3号	1号	2・3号	1号
4月	18		18	4	18	4	62	17	15	3	35	89	8	89%	89%
	18		22		22							97		89%	
5月	19		18	3	18	2	60	18	15	5	38	93	5	93%	56%
	19		21		20							98		90%	
6月	19		18	2	18	4	61	18	15	5	38	93	6	93%	67%
	19		20		22							99		91%	
7月	19		18	2	18	4	61	18	15	6	39	94	6	94%	67%
	19		20		22							100		92%	
8月	19		18	2	18	4	61	18	15	7	40	95	6	95%	67%
	19		20		22							101		93%	
9月	19		18	2	18	2	59	18	15	9	42	97	4	97%	44%
	19		20		20							101		93%	
10月	19		18	2	18	4	61	18	15	9	42	97	6	97%	67%
	19		20		22							103		94%	
11月	19		18	2	18	4	61	18	15	9	42	97	6	97%	67%
	19		20		22							103		94%	
12月	19		18	2	18	4	61	18	15	9	42	97	6	97%	67%
	19		20		22							103		94%	
1月	19		18	2	18	4	61	18	15	9	42	97	6	97%	67%
	19		20		22							103		94%	
2月	19		18	2	18	4	61	18	15	9	42	97	6	97%	67%
	19		20		22							103		94%	
3月	19		18	2	18	4	61	18	15	9	42	97	6	97%	67%
	19		20		22							103		94%	
合計	227	0	216	27	216	44	730	215	180	89	484	1143	71	95%	66%
	227		243		260							1214		93%	

(3) 定員充足率（毎年度3月末現在）

2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
93%	93%	96%	109%	106%

(4) 職員の概要

○常勤職員

- 園長 1名
- 主幹保育教諭 2名
- 副主幹保育教諭 1名
- 保育教諭 8名
- 栄養士 2名
- 調理員 1名
- 看護師 1名
- 事務員 1名

○非常勤職員

- 保育教諭 13名
- 事務員 1名
- 時間外保育従事者 9名
- 園児擁護員 2名

○嘱託医

- 学校内科医 1名
- 学校歯科医 1名
- 学校薬剤師 1名

○ 平均勤続年数：約7年（時間外保育従事者、嘱託医除く）

2. 事業の概要

中長期的な計画（財務・保育・人事・地域・施設）及び事業計画の進捗・達成状況
（保育）

- ・保育の質の向上を目指し、2023年度は現場における保育の振返りをクラスの見守りカメラを使用して、会議で取り上げてきました。このことにより、クラス的环境構成や保育士同士の立ち位置、子どもへの関わり方等の振返りを客観的に行うことができるようになってきたように感じています。今後は職員同士の対話を重視し、さらなる内容の充実を図ることを目標にしていきます。
- ・園内研修としては主幹保育教諭を中心としたOJTを8月頃までは継続的に行えたが、後半なかなか継続できなかったことが反省です。必要性をしっかりと理解して次年度も継続して取り組んでいけるようにしていきます。
- ・昨今の不適切保育を受けて他山の石としてとらえ、ヒヤリハットの共有を日常化してきました。大きな事故や不適切保育を未然に防ぐツールとしての利用、フィードバックの強化をしてきました。今後も継続実施することで各職員の意識向上を図ります。
- ・外部研修としての保育士キャリアアップ研修に職員育成の中長期計画のもと2023年度も6名参加しました。職員が外部研修参加することにより各自の専門性を高める他、各自の意識向上にもつながっています。
- ・保育と療育の連携については保護者へのアピールや発信については力を入れてきたところではありますが、保育現場での連携ということではまだまだ課題がありますので、併設の強み、併設だからできる連携の在り方を引き続き模索していきます。

（人事－人材確保・人材育成）

○人材育成（働きやすさと働き甲斐）

- ・働きやすさの面から、保育事務に追われ職員の疲労感やクラスミーティング時間が持てず保育の質低下につながらないように、保育事務時間の確保に努めました。クラス内ミーティングの時間も多く持てるように工夫を重ねてきました。
- ・各クラスの業務の見える化、進捗状況の見える化を図り、負担が一人に集中しないような工夫を行い、職員一人ひとりの業務負担による疲弊感が以前より減ったという声も上がっています。
- ・2023年度は働きやすさ委員会を中心に職員の座談会を実施しました。率直な職員の現状を把握することもでき、職員同士のコミュニケーションを図ることもできました。2023年度は経験年数毎や、常勤・非常勤の分け方等パターンを変えて年2回取り組んでいます。次年度以降については、座談会の実施が職員の現状把握とともにモチベーション維持・向上にもつながっているため、継続的にパターンを変えながら実施していく予定です。
- ・働き甲斐という点で、上記でも記載の通り主幹保育教諭を中心としたOJTが不十分だったと思います。新卒保育者は自分の保育を手探りで言い、日々迷いながら保育に向き合っています。不安や悩みに寄り添ったり、先輩保育者であっても子どもの育ちについて保育者同士で語り合ったり、保育者同士の対話の中で保育の醍醐味を感じたり、自分の保育を振り返ったりしていくものです。そういった意味では、主幹保育教諭を中心としたOJTに加えてより身近な先輩によるメンターを指名していくことの重要性も感じています。今後も継続的に主幹保育教諭のOJTの充実及びメンターの確立を図っていきたいと思います。

○人材確保

- ・実習から就職へつなげるという点で、2年生実習2名中1名就職につながり2024年度から勤務しています。園の保育や雰囲気を知ることのできる実習生を就職につなげるということは、園内職員の年齢的バランス及び経験年数バランス的にも良い効果となるということも含め、今後も定期的な新卒者の採用を検討していくためにはやはり実習から採用につなげていくことが採用後の定着にもつながるところだと考えられますので、実習先との関係作りや実習生への丁寧な対応を心掛けていきます。こういったことが、人事・保育・財務すべてにつながってくるところだと思いますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

(地域の子育て支援への取り組み)

- ・一時預かり事業

ニーズ増。これまで随時受け入れを行ってきておりましたが、ニーズ増に伴い常に予約がいっぱいの状態が恒常化し、随時受け入れることが困難になり予約のためのお問い合わせをいただいてもお断りすることが多くなったことから、月初に申込受付日を設け、さらに予約専用電話として打ち出したところ、コンスタントに利用される方のみならず公平性を保って予約が可能となったと感じています。また月初に翌月の予約が埋まる状況及び予約状況がわかることによって担当職員も準備がしやすくなったことが利点でした。

- ・園庭開放（カンガルーのぼっけ広場）活動継続

今年度もInstagramの反響が大きく、リピーターも増え毎回定員を割ることなく参加者がありました。参加される中でやはり子育てへの不安や悩みが多々あり、相談場所や遊び場を求めていることがうかがわれます。子育ての悩みに対応できる専門職員（保育士、看護師、保健師、栄養士、児童発達管理責任者、作業療法士）と園内には多職種揃っているため、まず園に足を運んでいただける機会を設けながら丁寧に関わっていくことを基本に今後も引き続き地域の子育て支援を継続して行っています。

- ・小鳩ルーム（プレ保育）

子育て支援及び1号認定入園へつなげていく活動として継続

2023年度の小鳩ルーム利用者は今年度3歳児クラスへ入園に結びつきました。

ぼっけ広場を0, 1歳児で利用した方が小鳩ルームへつながるケースも増えてきています。

- ・小学生の遊び場(虹の広場)

小学生の居場所として利用者本人は勿論のこと、その保護者からも大変喜ばれています。

2023年度については団地内同様の活動を行っている団体（社会福祉協議会ほっこり、こめっこキッチン、よなもんハウス）があり、互いに情報交換や情報共有を図りながら子どもを真ん中に地域として子ども達を支えてく連携が築き始められたと実感しています。引き続き地域とともに活動をしていきます。

(施設)

- ・2000年の1号館建て替えより20年を超えて使用しているため、少しずつ劣化や不具合の生じている箇所あり。

- ・2号館についても7年が経過し所々見受けられるので、施設を大切に使用していくこと及び修繕費用の積立をしっかりと計画的に整備していきます。

3. 財務の状況

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
流動資産	33,656,222	27,732,526	25,235,940	28,573,441	27,539,132
固定資産	249,426,765	273,341,863	290,951,327	310,233,459	335,472,739
資産の部合計	283,082,987	301,074,389	316,187,267	338,806,900	363,011,871
流動負債	28,847,656	24,992,172	26,006,392	25,666,211	27,591,070
固定負債	45,786,750	50,835,755	54,543,130	58,382,380	66,292,290
負債の部合計	74,634,406	75,827,927	80,549,522	84,048,591	93,883,360
基本金	30,174,601	30,174,601	30,174,601	30,174,601	30,174,601
国庫補助金等特別積立金	84,590,822	92,510,948	100,492,163	108,647,243	115,910,338
その他の積立金	2,500,000	5,500,000	3,295,000	2,371,000	4,447,000
次期繰越活動増減差額	91,183,158	97,060,913	101,675,981	113,565,465	118,596,572
純資産の部合計	208,448,581	225,246,462	235,637,745	254,758,309	269,128,511
負債及び純資産の部合計	283,082,987	301,074,389	316,187,267	338,806,900	363,011,871

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

勘定科目			2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
事業活動による収支	収入	保育事業収入	177,679,438	173,111,358	160,790,448	187,009,405	191,416,075
		借入金利息補助金収入	0	0	0	0	0
		経常経費寄付金収益	526,132	252,560	180,105	231,840	235,874
		受取利息配当金収入	175	247	235	627	1,800
		その他の収入	3,025,954	2,840,433	2,636,531	3,796,583	3,483,728
		事業活動収入計	181,231,699	176,204,598	163,607,319	191,038,455	195,137,477
	支出	人件費支出	139,411,056	133,884,915	119,539,351	143,692,612	153,516,710
		事業費支出	14,493,241	15,533,370	15,007,579	14,471,827	14,307,248
		事務費支出	15,439,836	14,679,218	18,127,877	18,162,431	14,469,033
		支払利息支出	235,807	256,387	276,967	308,684	344,115
		その他の支出	2,041,130	1,931,340	1,720,650	2,216,510	2,127,600
		事業活動支出計	171,621,070	166,285,230	154,672,424	178,852,064	184,764,706
	事業活動資金収支差額		9,610,629	9,919,368	8,934,895	12,186,391	10,372,771

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

勘定科目			2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	0	0	1,082,000	0
		設備資金借入金収入	0	0	0	0	0
		その他の施設整備等による収入	67,500	0	0	54,000	94,500
		施設整備等収入計	67,500	0	0	1,136,000	94,500
	支出	設備資金借入金元金償還金支出	4,176,000	4,176,000	4,176,000	4,671,000	4,671,000
		固定資産取得支出	178,500	40,500	13,500	1,281,300	1,390,817
		施設整備等支出計	4,354,500	4,216,500	4,189,500	5,952,300	6,061,817
	施設整備等資金収支差額		△4,287,000	△4,216,500	△4,189,500	△4,816,300	△5,967,317
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	3,001,770	453,868	2,134,614	3,889,746	2,279,517
		拠点区分間繰入金収入	0	0	1,017,997	0	0
		その他の活動収入計	3,001,770	453,868	3,152,611	3,889,746	2,279,517
	支出	積立資産支出	805,750	3,295,250	691,500	805,875	1,074,250
		拠点区分間繰入金支出	3,996,437	2,647,680	6,664,188	6,714,794	15,533,194
		その他の活動支出計	4,802,187	5,942,930	7,355,688	7,520,669	16,607,444
	その他の活動資金収支差額		△1,800,417	△5,489,062	△4,203,077	△3,630,923	△14,327,927
	当期資金収支差額合計		3,523,212	213,806	542,318	3,739,168	△9,922,473

前期末支払資金残高	11,184,354	10,970,548	10,428,230	9,689,062	19,611,535
当期末支払資金残高	14,707,566	11,184,354	10,970,548	13,428,230	9,689,062

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

勘定科目			2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
サービス活動増減の部	収益	保育事業収益	177,679,438	173,111,358	160,790,448	187,009,405	191,416,075
		経常経費寄付金収益	526,132	252,560	180,105	231,840	235,874
		その他の収益	0	0	0	624,139	211,402
		サービス活動収益計	178,205,570	173,363,918	173,363,918	187,865,384	191,863,351
	費用	人件費	141,670,036	131,224,297	121,392,237	143,959,741	154,267,443
		事業費	14,493,241	15,533,370	15,007,579	14,471,827	14,307,248
		事務費	15,439,836	14,679,218	18,127,877	18,162,431	14,469,033
		減価償却費	20,153,093	20,323,582	20,556,382	20,656,662	20,522,370
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△7,920,126	△7,981,215	△8,155,080	△8,345,095	△8,110,795
		サービス活動収益計	183,836,080	173,779,252	166,928,995	188,905,566	195,455,299
サービス活動外増減差額		△5,630,510	△415,334	△5,958,442	△1,040,182	△3,591,948	
サービス活動外増減の部	収益	受取利益配当金収益	175	247	235	627	1,800
		その他のサービス活動外収益	3,025,954	2,840,433	2,636,531	3,172,444	3,272,326
		サービス活動外収益計	3,026,129	2,840,680	2,636,766	3,173,071	3,274,126
	費用	支払利息	235,807	256,387	276,967	308,684	344,115
		その他のサービス活動外費用	2,041,130	1,931,340	1,720,650	2,216,510	2,127,600
		サービス活動外費用計	2,276,937	2,187,727	1,997,617	2,525,194	2,471,715
	サービス活動外増減差額		749,192	652,953	639,149	647,877	802,411
経常増減差額		△4,881,318	237,619	△5,319,293	△392,305	△2,789,537	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	0	0	0	1,082,000	0
		拠点区分間繰入金収益	0	0	1,017,997	0	0
		その他の特別収益	0	0	0	0	0
	費用	固定資産売却損・処分損	0	7	0	8	0
		国庫補助金等特別積立金積立額	0	0	0	1,082,000	0
		拠点区分間繰入金費用	3,996,437	2,647,680	6,664,188	6,714,794	15,533,194
		拠点区分間固定資産移管費用	0	0	0	0	0
	特別増減差額		△3,996,437	△2,647,687	△5,646,191	△6,714,802	△15,533,194
	当期活動増減差額		△8,877,755	△2,410,068	△10,965,484	△7,107,107	△18,322,731
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額		97,060,913	101,675,981	110,565,465	118,596,572	134,843,303
	当期末繰越活動増減差額		88,183,158	99,265,913	99,599,981	111,489,465	116,520,572
	基本金取崩額		0	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額		3,000,000	295,000	2,076,000	2,076,000	2,076,000
	その他の積立金積立額		0	2,500,000	0	0	0
	次期繰越活動増減差額		91,183,158	97,060,913	101,675,981	113,565,465	118,596,572

④財務比率の経年比較

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
経常増減差額率	△2.7	13.7%	△3.3%	△0.2%	△1.5%
流動比率	116.7%	111.0%	97.0%	111.3%	99.8%
純資産比率	73.6%	74.8%	74.5%	75.2%	74.1%
固定長期適合率	98.1%	99.0%	100.3%	99.1%	100.0%
借入金償還余裕率	45.9%	44.7%	49.8%	40.9%	48.3%
事業活動資産収支差額	5.3%	5.6%	5.5%	6.4%	5.3%
人件費比率	79.5%	75.7%	75.4%	76.6%	80.4%

事業費比率	8.1%	9.0%	9.3%	7.7%	7.5%
事務費比率	8.7%	8.5%	11.3%	9.7%	7.5%

(2) その他

①借入金の状況

借入先	期首残高	当期償還額	差引期末残高	利率 (%)	償還期限
(独) 福祉医療機構	49,764,000	4,176,000	45,588,000	0.7	2035.02

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対策

①収益性

今年度は安定的・継続的な経営となりました。

2023年度は3名からのスタートではあるが、少しずつ園児入所ができたことと、採用にかかる費用を1人分で抑えられたことが大きな要因です。

②短期安定性

支払能力を示す流動比率は200%以上であることが望ましいが、2023年度は未だ116.7%とはいえ、5年前は99.8%だったところ2022年度は111%、そして2023年度の116.7%の数字を見ると、順調に%が上昇しています。次年度2024年度は職員の確保ができていくこと及び八千代市単独補助としての「保育補助者雇上強化事業」の補助金の申請も踏まえ、補助金も安定した収入が見込まれると考えます。

③長期持続性

2023年度からは土地賃借料及び医療機構からの借入金返済（年4,176,000円）を自己資金で賄わなければならなくなったが、問題なく資金確保もでき、安定した経営となりました。借入金元金の返済負担の大きさを表す借入金償還余裕率は変わらず40%台を推移している為、このまま維持していきたいと思えます。

④資金繰り

固定資産整備に関する資金のバランスを表す固定長期適合率は100%を下回ることが望ましく、今年度も100%を下回ることができました。エールマリヤへの貸付金額¥4,993,290-の返済も早期の内に見込まれる為、安定した資金繰りとなる見込みです。

⑤合理性（人件費・事務費・事業費）

人件費は70%を下回ることが望ましいが、全体の職員配置を考慮するとこのままの人件費を維持していきたい。事務費・事業費に関しては8%と予算内の結果となった。物価高騰もあった中で大きく数字が変わらなかったことは、職員の努力の賜物と思われます。

事業費は昨年度より0.9%減少させることができました。上記でも記載しましたが、物価高騰のあおりを受けた中で数字が抑えられたことは大きな結果だと思います。事務費についても借入金の返済・エールマリヤへの貸付を行った上でも安定した資金繰りができており、貸付けた金額を考慮すると当期資金収支差額は¥8,516,502-となります。このことから年度内で返済が終わらなかったことについては反省すべき点であり、今後の課題として、よりしっかりと財務の見通しが立てられるよう精進してまいります。

2024年度に関しましては新卒採用できたことで毎年の課題となっていた手数料が抑えられたこと、4月から八千代市単独補助金の職員加配が取れたことなど順調な財務状況となっています。

4月に支出することなく職員確保できたことは大きな結果であり、今後もこの状態を維持しながら職員の定着化・離職防止についても尽力していきたいと思えます。

○今後の課題と目標

- ・ 職員の早期離職防止と定着化（事務費削減）
- ・ 今期はエールへの貸し付けがあったが、今後はエールへの貸し付けもなくなると思うので、定期的に収入の5%の積み立てができるようにしていきたい